

公開講演会

バルザックと動物磁気

(Balzac et le magnétisme)

(フランス語・入場無料・通訳あり)

日時：2019年12月21日(土) 14:00~16:30

場所：立教大学池袋キャンパス 11号館 A304 教室

講師：クレール・バレル=モワザン氏 (Claire Barel-Moisan)

(フランス国立科学研究所 CNRS-Lyon 研究員)

コメンテーター：鎌田隆行氏 (信州大学教授)

司会：菅谷憲興 (立教大学)

通訳：木内堯 (東京大学人文社会系研究科研究員)

クレール・バレル=モワザン：パリ高等師範学校出身。パリ第8大学文学博士。バルザックを中心にフランス十九世紀小説について多数の業績を残している。『知のフィクション、フィクションの知 *Fictions du savoir, Savoir de la Fiction*』(2011) などの著書の他に、『バルザック、分析の冒険 *Balzac, l'aventure analytique*』(2009)、『可能なるものの小説。フランス語圏メディア空間における未来予想 *Le roman des possibles. L'anticipation dans l'espace médiatique francophone*』(2019) などの編著がある。

鎌田隆行：パリ第八大学文学博士。バルザックの専門家であり、作家の草稿を研究する生成論の第一人者でもある。おもな著書に『バルザックにおける執筆戦略 — 『パリにおける田舎の偉人』の生成論的研究の試み *La stratégie de la composition chez Balzac. Essai d'étude génétique d'Un grand homme de province à Paris*』(2006) など。

主催：立教大学文学部文学科／共催：日本バルザック研究会

問合せ先：03-3985-2500 (学部事務一課)／菅谷 憲興 [noriokis@rikkyo.ne.jp](mailto:noriokis@rikkyo.ne.jp)